
スピーカー。

Neutral escape

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

スピーカー。

【NZコード】

N92190

【作者名】

Neutral escape

【あらすじ】

ある星にあるスピーカーが存在している。そこから物語は始まつた。

スピーカー（前書き）

実は短編用に作ったのですが、解説もつけました。
全2話です。

スピーカー

キイイイイイイイイイイイイ

スピーカーが揺れている。

それは、その音とスピーカーが共鳴しているからである。
共鳴することにより、ある周波数になると、
そのスピーカーは動く性質を持つていた。

そのスピーカーは只のスピーカーではない。

そしてその音も只の音ではない。
この世界も普通ではない。

音が普通ではないのである。

キイイイイイイイイイ

その音は再び鳴り響いた。

2度目の音で、あたりは真っ暗になる。

スピーカーから流れる音はキーンという音だけだった。

その音が4回鳴ったとき、この星は滅びると言われている。

このスピーカーが誰によつて何のために作られたかは、大体予想がつくだろう。

このスピーカーを発明した人は、家族によつて追放された。

そんな物騒なものを作るな、と。

しかしその人物はそのスピーカーが手放せなかつた。

そのスピーカーはその人物の友人に受け渡され、発明した人は、自害した。

3度目が鳴った。この世界もあと少しで終りを迎えるだろう。このスピーカーが鳴り出した時に、この記録を撮り始めていた。故に、3回目であることは確実である。

3度目のスピーカー音で、嵐が起こり始めた。
嵐はすぐ終わつたが、スピーカー音はいつこうにする気配を見せない。

•
•
•
•
•

なぜか突然、そのスピーカーは音を立てて崩れ落ちた。発明家の計算に狂いはないはずである。

管理もしないかりとされていた。

それにしても、このスピーカーは、なにひとつ役に立たなかつたような気がする。

そのときだつた。

地面が大きく揺れて、この星は大きな音を立てた。まるで、星全体が鳴っているかのように。

立つていられなくなるくらいに揺れている。地面もひび割れてきて
いる。

そして、この星は

スピーカー（後書き）

ありがとうございました

解説編（前書き）

『スピーカー。』

という小説の内容の意味があんまりよく分からなかつた人のために

ちょっとだけ解説します

ネタばれを含むので、原作を読んでない人はそつちを先に読んでください。

まず最初にスピーカーは
キィイイイイン という音と共に筆者のいる世界を破滅へと導きます。

人間の勝手な行いによって、その星は滅亡しかけていたのかもしれ
ませんし、スピーカーによって滅ぼされたのかもしれないですが、
どのみち人間の行いはよろしくないものだという設定です。

そのスピーカーは

筆者が『スピーカー』という言葉を5回話す（書く）度に、音を発
しています。これは、

1つの物事を説明するだけで、コレだけ多くの固有名詞が使用され
るのだ、ということを示しています。

つまり、

『スピーカー』を説明するだけなのに、『スピーカー』という言葉
を使いすぎている、という警告です。

どういうことかというと、

それだけ物事を説明するのに時間がかかる、ということであり、そ
れは例えば、自分がした悪い行いを説明するのにもぐづぐど時間が
かかる＝あまり事の重大さが分かつてない。
つてことだと解釈できなくもないんですね。

さて、3回目のキィイイイン という音と共に

そのスピーカーは音を立てて崩れ落ちます。

それは、筆者がいる星の未来を表しています。

次にその音がしたときは、この星は滅びますよってことを
そのスピーカーは伝えたかつたんだと思います。

スピーカーを作った人（以下、発明者）は自分の助手である、筆者
の事を試してみたかつたんではないでしょうか。
発明者は、自害したように見えていただけで、実は、まだ生きてい
るかもしれませんですね。

解説編（後書き）

コレをふまえてもう一度読み返してみてはいかがでしょうか？
個人的には、ちょっと深い小説を書いてみたんですけど
伝わりましたでしょうか・・・？

質問等あればコメントより受け付けております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9219o/>

スピーカー。

2010年11月15日00時55分発行